

分野	主要な道路の整備			事業番号	38	事業名	道路改築(地方道)			
市町村名	大町市	ふりがな 箇所名	いちやりがたせせん (一)槍ヶ岳線		みやたまち 宮田町	事業年度 (完了年度は見込み)	年度~	年度		
事業概要	計画概要 (延長・幅員・面積・工種など)	道路築造工 L-1,100m, W=6.0(12.0)m				H23年度末事業進捗率	0%			
	H24年度以降実施内容	同上				本工事費等ベース	0%			
	H24年度実施内容	-				用地補償費ベース	0%			
	年度	全体事業費	H22年度まで	H23年度	H24年度	H24年度以降残				
	事業費計(千円)	480,000	0	0	0	480,000				
財源内訳	国庫支出金	264,000	0	0	0	264,000				
	その他									
	県債	151,200	0	0	0	151,200				
	一般財源	64,800	0	0	0	64,800				
箇所評価	観点	評価項目・指標等			評価		ランク	評点		
	必要性 (30)	計画交通量	10,000台/日以上		1,500台以上~10,000台/日未満	1,500台未満	B	2		
		代替道路	唯一の道路である		代替となる道路がある			0		
		ネットワーク (道路網)	駅やインターチェンジが20km以内にある		駅やインターチェンジが20km以上にある	駅やインターチェンジに通じる路線でない		5		
			通行不能区間、冬期通行規制の解消又は市街地の活性化に資する路線である		山間地域の生活支援、商業、工業地域へのアクセスに寄与する	山間地域の生活支援、商業、工業地域へのアクセス、市街地の活性化に寄与しない		5		
		観光地に通じる道路		観光地に通じる道路ではない				3		
		各事業特有の必要性(安全の確保)		5.5m未満又は60m未満又は6%以上(幅員、半径、勾配)		5.5m以上6.5m未満(幅員)		6.5m以上(幅員)	4	
				自動車と自転車・歩行者との分離を図る		歩道はあるが不十分であるものを再整備		自動車と自転車・歩行者との分離がなされていない	2	
	小計						21			
	重要性 (15)	関連計画との整合	県計画に位置付けがある又は他の計画に関連(2個以上)		県計画に位置付けがある又は他の計画に関連(1個)	該当なし	A	6		
		設計上の環境・景観配慮	環境・景観配慮がされ確実性が高い		環境・景観配慮がされているが確実性が低い	環境・景観配慮をしていない		4		
		地域の法的な位置付け	緊急輸送路(1次)に位置付けられている		緊急輸送路(2次)又は、振興山村、積雪地域、過疎地域、地震防災対策強化地域、観光圏整備実施計画認定地域に位置付けられている	特別な位置づけはない		3		
		小計						13		
	効率性 (15)	費用対効果	B/C(3便益)1.0以上		B/C(3便益)1.0未満(3便益以外の観点から一定の効果が見られる)	B/C(3便益)1.0未満	A	3		
		事業効果の早期発現 (H24以降残事業年数)	事業年数 5年未満		事業年数 5年~10年未満	事業年数 10年以上		3		
		コスト縮減	全体的に構造物・規格等についてコスト縮減を実施している。		部分的に構造物・規格等についてコスト縮減を実施している。	コスト縮減はしていない		7		
		小計						13		
	緊急性 (20)	安全性の向上	交通事故や落石等の危険箇所の安全を向上させる		交通事故や落石等の危険箇所指定はないが安全を向上させる	交通事故や落石等の危険がない	B	6		
		各事業特有の緊急性(渋滞対策・環境保全)(医療・福祉・教育)	渋滞箇所又は騒音・振動箇所が緩和する		渋滞箇所又は騒音・振動箇所ではないが、朝夕の局部的現象を緩和する	渋滞対策又は騒音・振動対策ではない		0		
			医療・福祉の連携が発揮できる道路(ネック箇所の解消)		医療・福祉の連携が発揮できる道路(円滑化が図れる)	医療・福祉の連携に関係ない道路		5		
		小計						11		
計画 熱度 (20)	地域からの要望	地域住民の内発的な要望が強い		市町村からの要望	特に要望がない	A	7			
	事業情報の共有	関係者以外に広く周知		関係者中心に周知	特に周知していない		5			
	住民参加の状況	住民が計画策定に直接参加		住民や市町村の意見を計画策定に反映	特に住民意見は反映していない		4			
	小計						16			
費用対効果(B/C)		2.8		評価の合計		B	74			
事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	当該区間は、小中高等学校がある通学路であり、中心市街地へ通じる生活道路でもある。また、大町ダムや葛温泉へアクセスするため、観光にも利用される路線である。現況は両側に歩道があるが、幅員1.0mと非常に狭くて通行しにくい上に、車道幅員も5.0mしかないため自転車の通行や車同士のすれ違いに危険がある。特に、冬期は雪によりさらに幅員が狭まり、歩行者が非常に危険な状態であるため、地元から改良の要望が強い。									
地域からの要望経緯	平成16年の道路行政懇談会で、歩道の改良と除雪困難解消について要望があり、H18年から毎年、野口等沿線自治会より強い要望がある。									
事業説明等の経緯	昭和26年10月に都市計画決定され、沿線住民に将来計画の周知が図られている。									
環境・景観への配慮項目	構造物は小規模なものにとどめ、出来るだけ目立たないようにする計画である。									
他事業・プロジェクトとの関連	都市計画決定区間である。									
特記事項	今後、住民意見を聞きながら計画を進めていきたい。									
地域の合意形成	全員賛成	概ね賛成	過半数賛成	動向不明	その他					
部意見	重要性、効率性の評価レベルは高い。今後計画熱度を高め、事業化を検討したい。			政策評価課	重要性は認められる。					